

板橋区観光振興ビジョン 2035

《骨子案》



板橋区

はじめに

区長挨拶が入ります。

令和 年 月 板橋区長 坂本 健

【基本理念】

ひとまちみどりがつなぐ、暮らす・訪れる・魅せる“いたばし”

板橋区は、都市化が進んでいる東京23区にありながら、宿場町として栄えた街道文化の歴史と、古くから地元住民に愛されてきた商店街などの生活文化、河川・公園をはじめとする自然環境が残されており、先人から受け継いできた伝統が今でも息づいています。

板橋区の観光は、区民に親しまれている歴史／文化／自然の地域資源を保全するとともにさらに磨き上げ、板橋区に対する区民の「愛着」と「誇り」を高めるものです。

特に、地域の日常の暮らしや文化を体験するライフスタイルツーリズムを推進することで、区民による体験・参加・交流を来訪者にも提供し、板橋区ならではの魅力を感じてもらうことができます。

これにより、「暮らす」「訪れる」「魅せる」の視点から、板橋区の魅力をさらに高めることを目指します。

【ビジョンの視点】

歴史／文化／自然

- ・史跡公園、植村冒険館、こども動物園など、加賀を中心とする歴史・文化・自然を結びつけた地域資源の創出と活用
- ・河川敷を中心とした河川空間とスポーツや音楽イベントを組み合わせるなど、複合的視点を用いた体験コンテンツの創造とにぎわいの創出
- ・産業ミュージアム、史跡公園、あずさわスポーツフィールド、高島平プロムナードなど文化・産業・スポーツ・緑・イベントをつなぐ、独自の新しい交流フィールドの創出

まちづくり

各地で実施されているまちづくりおよび駅前再開発事業と連携した、区内5エリアの個性を活かした魅力ある地域づくりの推進

魅力発信

美しく臨場感ある写真とストーリー性を持たせた文章による、人を惹きつける板橋の魅力発信

人材

来訪者向けのガイドツールの活用や専門的な知識を持った観光ボランティアの育成など、新たな担い手による魅力発信の強化

地域

東上線・三田線駅前商店街の商業文化と川越街道・中山道の街道文化を結びつけ、地域コミュニティを活かした地域ブランドの創出

【目標】

すみたくなる

各地域で進めている「まちづくり」のエリアを新たな体験・参加・交流の場として位置づけ、区内回遊やまち歩きを楽しむ板橋の新たな魅力エリアを創出する。

いきたくなる

歴史／文化／自然の地域資源を掘り起こし、板橋区に対する区民の「愛着」と「誇り」を高める新たな魅力を体感する機会を創出する。魅力づくりにあたっては、地域資源の保全を基本に、景観にも配慮した質の高いプログラムを提供する。

いたくなる

板橋区の魅力を、多様な情報発信により来訪促進を図る。観光ボランティアの育成や産学官連携を通じ、受入体制を強化する。

もてなす・たのしませる

子育て世帯に向けた取組みを板橋の魅力として発信する。地域資源を掛け合わせた新たな魅力を創出するとともに、食と商店街を通じたにぎわいづくりを推進する。

すみたくなる



取組の方向性

駅前を中心とした再開発エリアを、体験・参加・交流の場と位置づけ、地域資源を活用した取り組みにより区民の定住意識を醸成します。

上板南口での先導的な取り組みを発信し、板橋区への「誇り」と「愛着」を育みます。

荒川河川敷での「かわまちづくり事業」を新たな体験・参加・交流エリアとして活用・発信します。

2035年目指す姿

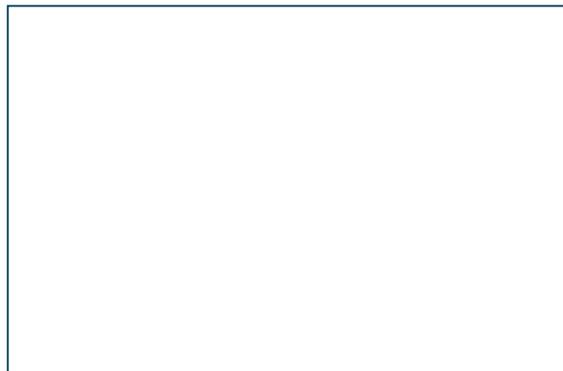
駅前などの再開発事業が進み、体験・参加・交流を推進するまちづくりが展開されています。

上板南口の取り組みを参考に、地域個性を活かしたまちづくりが実施されることで、区内各地域の魅力が高まり、板橋区に住みたくなる、住み続けたいと思う区民が増加しています。

1 - 1 板橋区の玄関口となる空間の活用

駅前を中心とした再開発エリアを、新たな体験・参加・交流の玄関口と位置づけ、駅周辺地域の歴史／文化／自然を活用した取り組みを推進することにより地域の魅力を高め、区民の定住意識を醸成します。

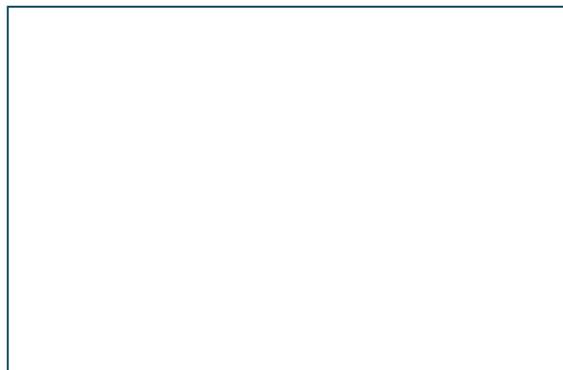
新たな体験・参加・交流の玄関口では、イベントの開催、散策ガイドや地域案内、地域交通の乗り換えサービスを展開するなど、地域の魅力発信と、区民の交流促進を図ります。



1 - 2 ライフスタイルを創造する上板橋エリアの魅力向上

『上板南口まちづくりビジョン』に示されている「ひと中心の価値観をまちづくりに反映し、上板橋らしい特徴あるライフスタイルを創造する」という方針を区民に発信し、板橋区への「誇り」と「愛着」を育みます。

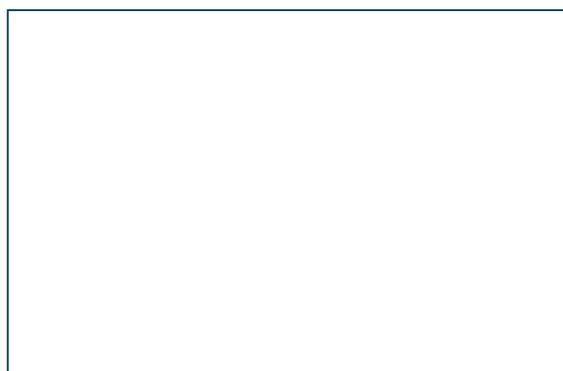
また、上板橋エリアでの先導的な取り組みを区内外に発信することで、多くの来訪者を呼び込み、地域の魅力が評価されることで、さらに上板橋エリアの価値を高めます。



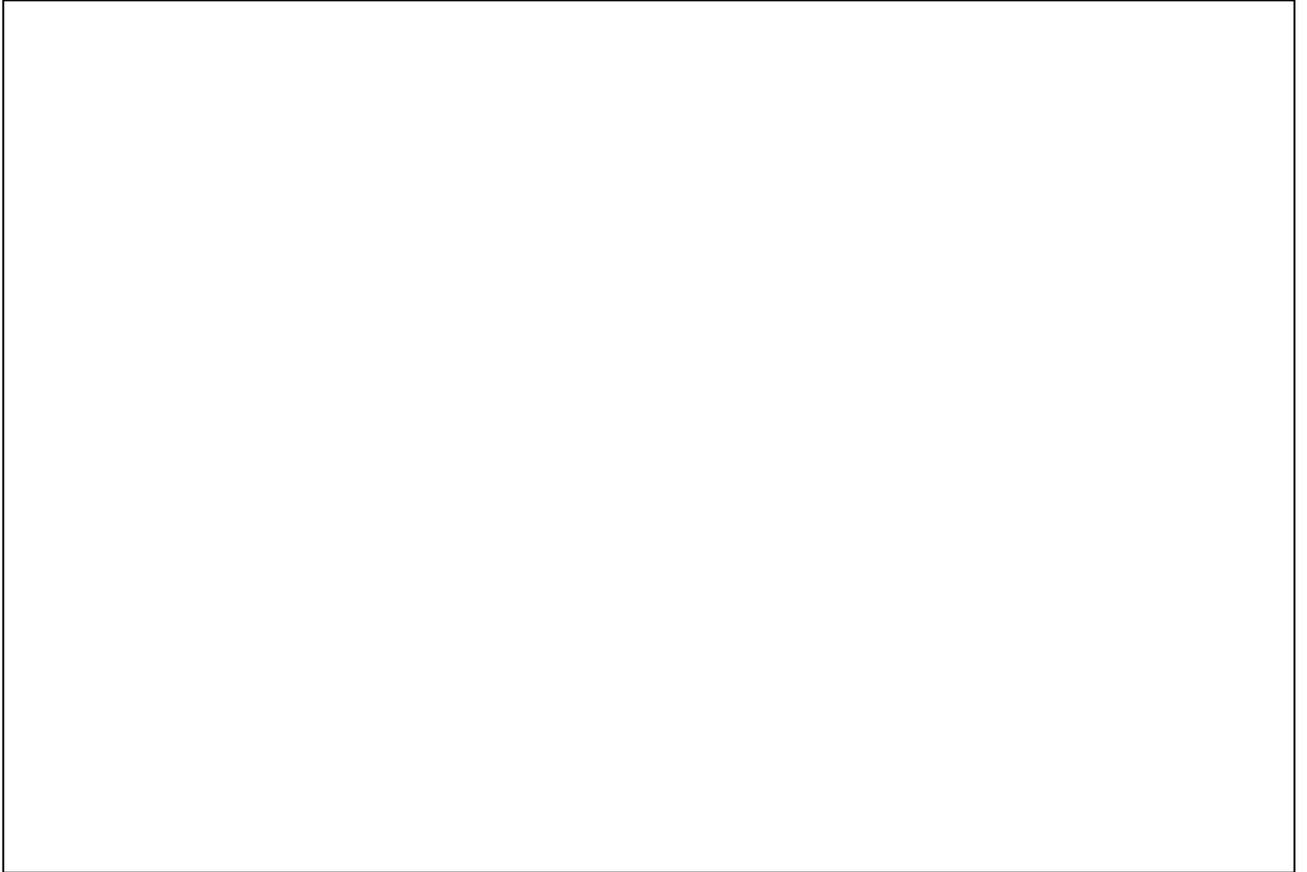
1 - 3 自然体験型アーバンリバーパークを活用した複合コンテンツによる魅力の創出

荒川河川敷の価値を最大限に引き出し、交流人口の増加やにぎわいの創出につながる水辺空間の形成を目指している「かわまちづくり事業」を新たな体験・参加・交流エリアとして活用・発信します。

新施設を会場として、音楽をはじめとする文化芸術やスポーツ競技等のイベントなど、水辺空間を活かした複合コンテンツによる魅力を創出し、にぎわいの創出と新施設の知名度向上を図ります。



いきたくなる



取組の方向性

歴史資源および地域文化資源を活用した、いきたくなる体験・参加・交流コンテンツを創出します。

商店街や町中華などの地域文化をテーマに、板橋区の魅力を発信します。

さらに、水辺や公園を活用したイベントを開催し、にぎわいの創出と自然環境の保全を図ります。

2035年目指す姿

これまで活用されてこなかった板橋区の地域資源が掘り起こされ、多様化する消費者ニーズの変化にも応えられる様々な魅力を体感する機会が充実しています。

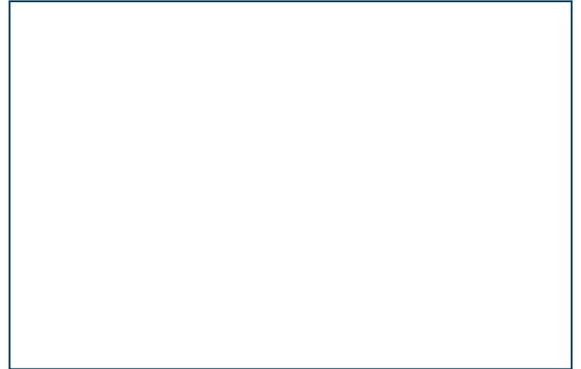
それによって板橋区の魅力が多くの人に共感され、誇りに思う区民が増え、すみたくなる、いきたくなる板橋ファンが増えていきます。

2-1 歴史的資源を活かした体験・参加・交流コンテンツの造成

中山道及び川越街道の歴史的資源を活かし、旧宿場町の魅力を高める景観整備を進めるとともに、加賀エリアの史実や偉人等の歴史及び文化に関する資源を活用した、いきたくなる体験・参加・交流コンテンツを造成します。

板橋区史跡公園(仮称)やいたばし観光センターを地域情報提供の拠点とし、既存市街地と融合させながら、いきたくなるコンテンツの発信と、歩きたくなる環境整備を推進します。

江戸四宿や中山道等をテーマに地域連携を強化し、板橋区の旧宿場町の知名度を高めていきます。

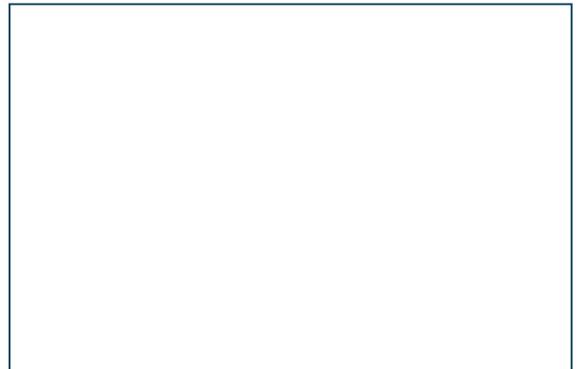


2-2 日常を楽しむ地域文化資源の活用

板橋区の地域性が色濃く反映された地域文化資源を活かし、特定のテーマを楽しむ区内での過ごし方を提案します。

来訪者が板橋区に訪れる理由として、町中華や商店街などが挙げられており、ニーズに沿った地域文化のテーマを設定します。

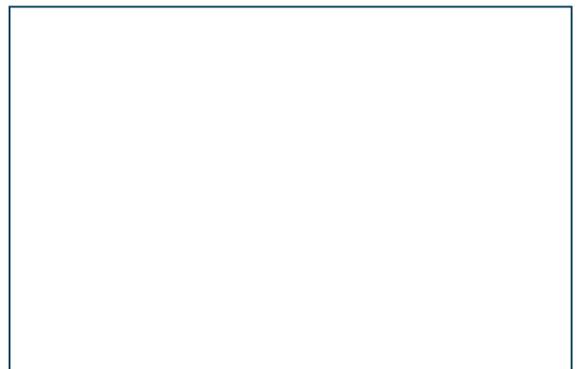
例えば、①絵本のまち板橋、②商店街食べ歩き、③町中華、④健康・医療のまち、⑤地場産業、⑥暗渠巡り、⑦団地ライフ、⑧板橋のいっぴんなどが考えられ、板橋区にいきたくなる動機づけにつなげます。



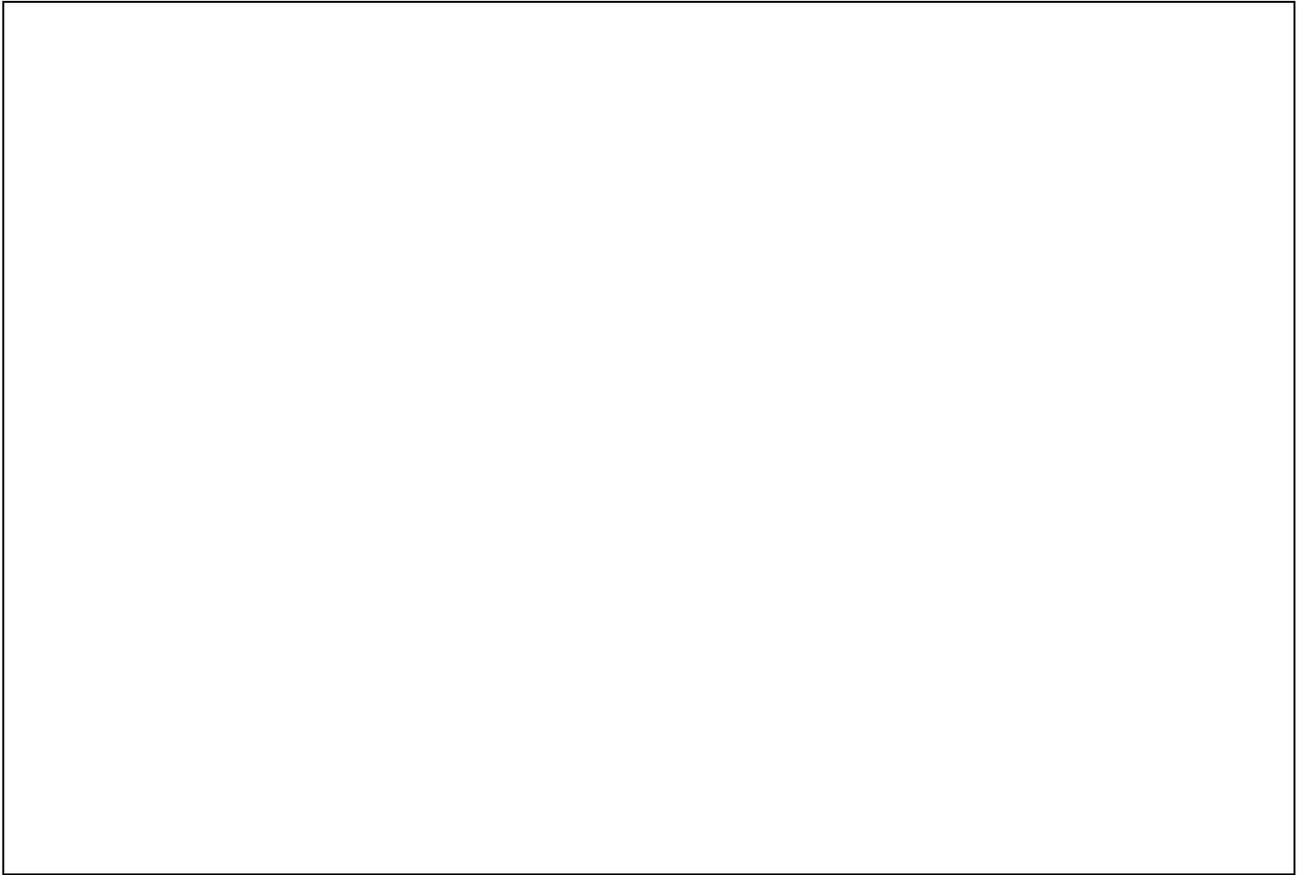
2-3 自然資源「水辺」「緑地」「公園」の保全・活用

区民の健康づくりの場としてウォーキングやサイクリングにも利用されている「水辺」「緑地」「公園」を、区民が体験・参加・交流できるにぎわいの場として活用し、板橋区の自然資源の魅力をさらに高めます。

また、これらの場所でライトアップ、マルシェ、自然観察会、音楽コンサートなどのイベントを開催し、その収益の一部を自然環境の保全に活用する仕組みの導入を目指します。



いたくなる



取組の方向性

地域資源の魅力を発信するため、「板橋ストーリー」を制作し、シティプロモーション戦略に基づき、多様な媒体を活用した情報提供体制を整備します。

板橋4大イベントや伝統行事における地域情報の発信を強化し、地域への関心を高め、来訪者の滞在時間延長と地域の魅力向上を図ります。

2035年目指す姿

板橋区を紹介する「板橋ストーリー」がいくつもあり、観光ボランティアが案内するガイドツアーは、人気のあるコンテンツとして評価されています。「板橋ストーリー」の区民の認知度が高まり、今後も板橋区に住み続けたいと思う区民の割合が高まっています。

地域情報が区民及び誘客層に届き、区内の滞在時間が増えています。

3-1 行って知って好きになる、地域情報の発信

これまで紹介してきた地域資源について、その歴史的背景や地域コミュニティとの関わり、区民の生活との結びつき、さらに個人の思い出などを整理した「板橋ストーリー」を制作します。これにより、地域資源の魅力をさらに磨き上げ、いきたくなる、いたくなる価値ある地域情報として発信していきます。

地域情報の発信では、板橋区シティプロモーション戦略を踏まえ、「板橋区の9つの特徴」を交流や回遊の強みとして活用し、広報・宣伝活動を展開します。

【板橋区の9つの特徴】

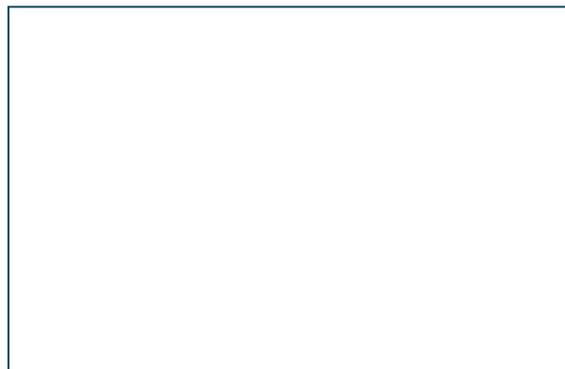
- ①文化や歴史が感じられる／②自然や公園に癒される／③買い物を楽しめる／④子育てを積極サポート／⑤学びの環境をバックアップ／⑥楽しく学べる施設が充実／⑦家族の安心を守る／⑧健康な生活を応援／⑨便利で暮らしやすい



3-2 多様化するニーズに対応した効果的な情報媒体の活用

国籍、年齢、障がいなどに関係なく、誰もが地域情報にアクセスでき、板橋区での体験・参加・交流を安心して楽しめる情報提供体制を整備します。

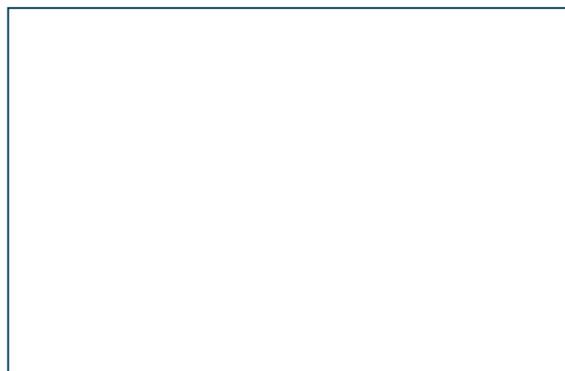
多様化する消費者ニーズに対応したいきたくなる情報提供が行えるように、誘客対象によって情報媒体を使い分け、テーマに特化した情報発信を行います。



3-3 板橋の魅力を伝える産学官一体となった受入環境の整備

いたばし花火大会・板橋区民まつり・板橋農業まつり・板橋Cityマラソンの板橋4大イベントに加え、各地区のまつりや伝統行事など、区や区観光協会の公式アカウントを通じた情報発信を強化します。

イベント開催時には、会場周辺の地域情報も併せて発信するなど、多様な魅力を訴求できるように取り組みます。これにより区民が地域コミュニティの一員であることを再認識するとともに、来訪者の区内滞留時間を延ばし、板橋の魅力を更に高めます。



もてなす・たのしませる



取組の方向性

板橋区での「子育て支援」の取り組みを発信し、板橋区のライフスタイルに共感する来訪者を増やし、地域ブランドの価値を高めます。

街道文化や商店街、河川公園など複数の地域資源を掛け合わせて活用し、来訪者をもてなす新たな魅力を創出します。

商店街に更なるにぎわいを創出し、区内消費を促進します。経済活性化と文化・自然の保全を両立し、持続的な発展を目指します。

2035年目指す姿

「子育て世帯」をもてなし、楽しませる取り組みを発信することで、板橋区に対する良好なイメージが向上しています。

地域資源を掛け合わせによる魅力づくりの仕組みが構築され、常に新しい魅力を提案しています。

来訪者をもてなし、楽しませる商店街で役割が強化され、新たな魅力が創出されています。

4 - 1 子育て世帯に選ばれる地域ブランディングの推進

「子育て世帯」を主要な誘客対象とし、同世代の区民が楽しんでいる子どもの遊び場に関する情報を発信するとともに、全国的に評価されている「子育て支援」の取り組みも広く発信します。

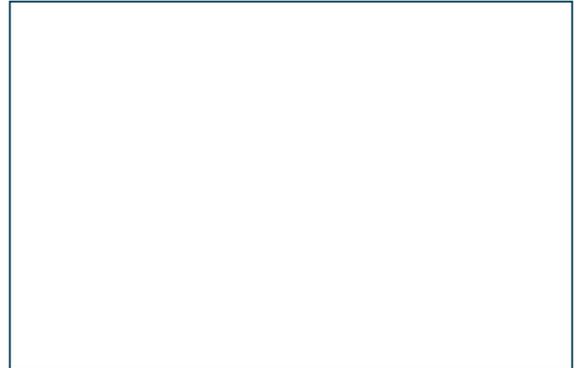
また、「子育て世帯」の視点から、絵本のまちや赤ちゃんの駅など、板橋区での楽しみ方や区民のもてなしに関する情報を発信することで、板橋区のライフスタイルに共感する来訪者を増やし、地域ブランドの価値を高めていきます。



4 - 2 地域資源の掛け合わせによる新たな魅力の創出

地域資源を活かした体験・参加・交流の取り組みを、例えば、①街道文化×商業文化、②河川公園×音楽イベント、③街中華×まち歩き、④絵本のまち×ポーロニャ食イベント、というように掛け合わせることで、地元区民がもてなし、来訪者に楽しんでもらう新たな魅力を創出します。

同じ地域で複数の取り組みを掛け合わせることで、地域経済の活性化と歴史・文化・自然の保全を両立させ、地域が持続的に発展していく仕組みづくりに取り組みます。



4 - 3 食・商店街を通じた、にぎわいづくり

古くから地域住民に愛されてきた、情緒あふれる店舗および商店街を舞台に、集客イベントや散策ガイドツアーなど、来訪者をもてなし、楽しませる、新たなにぎわいの創出に取り組みます。

板橋4大イベントや各地域で実施される集客事業の開催前後に、店舗や商店街に立ち寄り、区内消費を高めるため、地域情報の連携を強化します。

